

システム

当行は、システム開発の迅速化、効率化を図り、多様化、高度化する各業務の円滑なサポートを行っております。

当行は、日本版ビッグバンの進展の中で、リーディングバンクとしてコマースバンクとインベストメントバンクを両輪とした事業金融を担う為、業務を展開しております。そうした中、システム部門は、環境変化に即応する為、システム開発の迅速化・効率化を図りつつ、業務の円滑な推進のサポート、収益情報・リスク情報等、経営管理に必要な重要情報の適時把握、把握した重要情報の迅速な伝達・共有化に重点を置き、システム開発を実施して参りました。

当行のシステム開発

当行は、経営方針の実現に向けた円滑な業務遂行の為、それぞれの業務特性に適した形でシステムを構築しております。具体的には、融資・債券等、事業金融の基本的業務は、総合オンラインシステムにて、また、近年デリバティブズ等の商品多様化が加速している市場業務は、クライアント/サーバー方式の機動的なシステムにて対応していること等が挙げられます。また、海外におきましては、各業務毎に最適なパッケージソフトを利用し、それらを統合した新業務サポートシステムを本年5月に稼働させました。

また、業務から発生する収益・リスク等の経営管理情報をタイムリーに把握・管理する為のシステム整備にも力を入れております。業務サポートシステムからのデータを一元的に蓄積し(基幹データベース)、目的に応じて基幹データベースから情報を抽出・加工するという流れで情報系システムを構築しており、それにより、グループ全体の市場リスクや信用リスクの定量的把握を実現しております。

一方、当行は、情報の迅速な伝達と共有化を図る為、行員一人に一台、国内外全拠点ネットワークに接続されたパソコンを配備し、電子メールや業務遂行上の必要情報を掲載したイントラネットを展開しております。

システム開発体制の効率化

当行は、より柔軟で効率的な体制を構築する為、平成9年6月に「連邦型」の体制へ機構改編を実施致しました。具体的

には、従来、一部署で担っていたシステム企画管理機能を、ビジネス戦略を立案する各業務本部に移し、ビジネスの変化に即応できる体制にする一方で、各業務本部間の連携を円滑に進める為、CIO(Chief Information Officer)を置き、経営の立場から本行全体の最適化や経営方針との適合性を確保し、また、システム企画部を設置し、CIOをサポートするとともに、部門全体の共通的手法・新技術情報・共通インフラ等の提供による、全体としての効率化(マスマリット)を推進しております。

今後の展開

昨今の金融を取り巻く環境に鑑み、金融機関は、より一層の経営管理の強化と収益力向上・財務体質改善が求められるとともに、自由競争に勝ち抜く為の独創性、専門性の確保が必須となる中で、当行がリーディングバンクとしての地位を維持していく為には、システムの一層のレベルアップが必要不可欠であると考えております。その為、当行は、大きく以下の2点の強化を図っていきたくと考えております。

重点開発分野への迅速な対応

市場リスク・信用リスク等銀行経営上の様々なリスクに対する管理や収益のきめ細かい管理等経営管理を強化する為のシステム構築に加え、日本版401(k)(確定拠出型年金制度)への対応等、新しい業務にいち早く参入し得るシステムサポートが求められております。そうした重点開発分野に今後ともタイムリーに対応できる体制を整備して参ります。

システム開発の一層の効率化推進

また、当行の収益力向上の観点からは、今まで以上に効率的な投資を実現していく必要があります。その為、システムの利用効率等に基づき既存システムのスクラップアンドビルドを行う等、システム維持に要する固定費の削減により新規投資余力を確保して参ります。また、要員教育の強化や新技術導入等による開発効率の向上を図り、より少ない投資で最大限の効果を発揮できるよう尽力して参ります。